

平成29年度学校関係者評価

【児童生徒指導について】

- ・東日本大震災以降、自分の身は自分で守ることが大切であるとされている。危機管理マニュアルをどのように作っているのか。また、那須烏山市との連携はとっているか。

＜学校から＞ ・防災マニュアルは数年前に作成したもので、近年の天候の変化に対応していない部分もあるので、その都度見直し、改訂を行っている。具体的にはゲリラ豪雨や積雪、Jアラートへの対応などについて改訂や加筆を行った。また、本校是那須烏山市の避難所とはなっていないが、県からの指導で、避難所となる場合を考慮し、受入体制を整備している。

- ・教員の身だしなみについての意見があるが、学校側として何か思い当たることはあるか。実習に来る学生には適切な身だしなみをするよう伝えている。女性の実習生には下着の線が見えないようにしてほしいなど、気を付けることを細かく伝えている。人によって見方が違ったりするが、身支度、行動、言葉遣いなどが適切でないときにはそれを否定できるようにしていく必要がある。

＜学校から＞ ・児童生徒に求めていることについては、教師自身も一緒になって行う。教師が模範、手本として正しく示していく必要がある。

- ・企業は服装については厳しくルールを決めており、守れない場合は厳しく追及する。何を目的としてその行動を行っているのか考えてルールを決めている。学校も決め事はあると思うが、人によって見方も違うので考え直すことも必要ではないか。

- ・駅から学校まで徒歩で通う生徒は、交通ルールを守っていて態度が良い。大金駅周辺で待っている態度も良い。本校生の居場所作りに協力していきたい。工業団地入口からの歩道の整備にも力を注いでいきたい。

【進路指導について】

- ・交通手段の確保が課題として挙げられているが、在学中に自動車の運転免許を取得するなどの対応はできているのか。

＜学校から＞ ・児童生徒指導部が管轄で、届けを提出してもらい、許可を出し教習所への通学を可能にしている。

- ・卒業生で福祉サービス事業所での仕事を経て企業等に就職したときに人間関係で悩み、メンタル面の理由で仕事を続けていくことが厳しくなり、事業所に戻ってくることがあった。企業は障害者の数を確保するためという理由で採用するが、うまくいかずに戻ってくると、メンタルの部分、特に人に不信感をもつという傾向が強い。企業も採用はしたが、その後の対応がうまくいっていないと思う。

＜学校から＞ ・企業に就職した後の定着を図るために、就業生活支援センターにつなげて対応していただいている。卒業時からの関係となると書類上での関係にしかならないことが多く、お互いに関係作りがなかなかできず、卒業生が一人で悩み、離職となることが多かった。そこで在学中からお互いの関係作りをすることに変更してきた。

- ・会社で卒業生を受け入れた経験があるが、活発でとても良く働いてもらえた。現在は厚労省の指導で障害者を雇うようにと指導がされており、法定雇用率を満たすために数字だけを追っている企業が多い。そこをうまく利用して卒業生を送り出してはどうかと考える。

- ・10年前は就職に関してはなかなか厳しさがあり、現在のようにこれだけの実習先が確保できるようになるとは思っていなかった。職場開拓にかなりの苦労があったのではないかと。企業に理解を求め、法定雇用率を利用して就労につなげていけたら良いと思う。

- ・挨拶が良くできており、逆に既存の社員ができていない。日常生活関係の指導もしっかりと行われていると感じる。そこを伸ばしていけると良い。

・実習先として引き受けることがあり、そのときに感じることだが、挨拶や言葉遣いに関する指導が行き届いている。自分は仕事をするために来ているという意識を持っているとも感じた。
・福祉サービス事業所で働いている本校卒業生は、トイレは休憩時間に行く、時間を守る、食後の歯磨きを自分から行うなど、基本的なことが良くできている。
・就労継続支援B型については制度が難しい。就職できないから希望しているのだから、アセスメントを優先するより、まずは事業所に送り出してほしい。
・進路先について考えるのは高等部からで良いかなという気持ちがあったが、小学部のうちから進路について考える必要があることがわかった。保護者と学校の連携を十分にとり、施設説明会など就職や実習先についての話をしてもらいたい。
【PTA活動について】 ・PTA活動に出てくる人が変わらない。全員が出てくるのは無理な話であるが、PとTが同じ方向を向いていくようにしなければならないと思う。
・PTA活動に関して、以前より保護者同士のつながりが薄くなっているように思う。福祉サービスが充実してきて放課後デイサービスや日中一時支援などを利用しやすくなった分、仕事をしている保護者が増えたためだと思う。しかし、PTA活動の持ち方を工夫し行事と抱き合わせで活動をもつことで、6割以上の方に参加していただけている。PTA活動のあり方を考え直していかなければならない時期かと思っている。
【個人情報の扱いについて】 ・個人情報の扱いなど、地域や保護者へのPRの仕方が難しくなっている。どのように情報を提供し、PRしていけば良いのか、工夫している点などはあるか。 ＜学校から＞ ・ホームページでは各行事のねらいを示し、その様子などを積極的に紹介している。活用は昨年度より多くなっているが、教員の資質能力の向上も必要であると考え。個人情報については、写真掲載の可否など毎年保護者に確認をとっている。
【学校評価アンケートについて】 ・項目によって保護者と教員の評価に違いがある。この点をどう考えるか。 ＜学校から＞ ・重く受け止めている。いじめに関する項目などは見えない部分もあるので注意深く対応していく。
・児童生徒が毎日学校に行きたいと思う学校になっているか。保護者と教員の協力がうまくいっているのか、ということがわかるような評価になっていると良い。
【感想、その他】 ・公開授業等で挨拶ができていると感じる。これからも指導を続けてもらいたい ・公開授業等に伺うたびに、挨拶が良くできている、子どもたちに落ち着きがあり、先生方がうまく対応できている。子どもたちが楽しそうにしている様子を伝えてもらえると、保護者も安心できるのではないか。 ・学校祭や公開授業を見学して、授業のリーダーの教員とサブの教員がうまく合わせて、子どもの一人一人の動きや子どもの目を見て対応している。子どもの興味関心のある物を取り上げてやっている。また、教員が自分からやってみたいと思うことを工夫してやっている環境はとても良いと感心する。 ・保護者からの意見が小中学校よりかなり多いと感じる。子どもたちが自分の意見を言えないため、親が子どもの代弁者となって伝えなければならないと、個人的には思っている。 ・保護者への伝え方は、HP、紙、連絡帳、様々あると思うが、きちんと伝わっていないことがある。情報がうまく届かない、難しい課題だと思う。